

2021(令和3)年度 審判講習会資料

一般財団法人茨城陸上競技協会
医事委員会

2020年の競技会

新型コロナウイルス感染症の影響で、春から6月までは全ての競技会が中止

7月以降も限られた競技会の実施

茨城県選手権・関東選手権中止

鹿児島国体の開催取りやめ

7月18日の県中学記録会から競技会が再開

医事委員会からは12競技会、合計18日の医師派遣

体調チェックシートの提出

体温チェック

などを実施

2020年以降、競技会に起因する感染者の発生はなし

今後も日本陸連の感染予防ガイダンス にしたがった競技会運営が望まれる

改訂もあるので、最新情報を得ることが必要

陸上競技活動再開のガイダンス

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/13857/>



ロードレース再開についてのガイダンス

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/13887/>



2021年度も、医事委員会は県内の競技会への医師派遣と国体関係のトレーナー派遣を行います

2020年のアンチ・ドーピング規則違反について

2020年のアンチ・ドーピング規則違反の公表はなし（2021年3月14日の時点）

近年、サプリメントに含まれていたと考えられる成分で違反と認定された事例が複数報告されている

- ・安全なサプリメントを選ぶ基準

「アンチ・ドーピングのためのスポーツサプリメント製品情報公開サイト」 <https://www.sports-supplement-reference.jp/>

海外の認証システムであるInformed ChoiceやInformed Sportsなど

©茨城陸協医事委員会に問い合わせてもらえればある程度の助言はできるが、サプリメントは食品のため、全ての成分が明確にされているわけではなく、完全な安全性を保証することはできない

2021年のアンチ・ドーピング禁止表変更点

気管支喘息の予防に用いられるベータ作用薬である吸入ビランテロールが、製造販売会社の最大推奨投与量まで許可されると新たに記載

これまでと同様に、吸入サルブタモール、吸入ホルモテロール、吸入サルメテロールも最大推奨投与量まで使用可能

*ただし、同じ成分でも吸入以外の使用は禁止

薬物等の使用に際して

使用可能薬を確認する方法

- ・ 日本スポーツ協会の使用可能薬リスト

<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/doping/tabid537.html>

- ・ 日本薬剤師会「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」

<https://www.nichiyaku.or.jp/activities/anti-doping/about.html>

治療のために禁止物質を使用する必要がある場合

- ・ 治療使用特例（TUE）の申請手続きが必要

<http://www.realchampion.jp/download/6>

日本スポーツ協会使用可能薬リスト



薬剤師のためのアンチ・ドーピング
ガイドブック



治療使用特例（TUE）について



長距離競技者の鉄剤注射について

長距離競技者は鉄欠乏性貧血になりやすく、それに対して鉄剤の使用は有効な治療

*ただし、飲み薬による内服治療が基本

不適切な量の注射⇒鉄過剰⇒肝臓、心臓、甲状腺などに異常

貧血の原因は鉄欠乏だけではない
鉄の補充で全てが解決するわけではない



専門家への相談が不可欠